

令和5年2月14日実施

「どんな人に育ってほしいですか？」

子どもの主体性を伸ばす子育てのヒント」講座の様子

講師：村上 三保子さん（こどもカフェ主宰）



♪こんなことを学びました♪

言われたことだけをやっていけばいいという社会ではなくなりつつある。ゼロから何かを作り出せる人が求められている時代に、子どもの主体性を伸ばす子育てのヒントとは？

### 【参加の動機】

- ★これからの育児の参考になればと。
- ★日常生活で子どもとどうかかわったらいいのか悩むことがある。
- ★子育てに役立つ学びがあればいいなと思い参加しました。



### 【講座の内容】

- ★「お子さんが産まれた瞬間、どんなことを思いましたか？」「18歳成人になるときにどんな人になってほしいですか？」と講師から参加者に問いかけます。
- ★2歳からの子ども料理教室「こどもカフェ」の3つのお約束について紹介、①手出し口出ししない。②「やる」「やらない」は子どもが決める。③「上手！」とほめすぎない。  
手が汚れることを嫌がる子どもや火をこわがる子どももいる。洗剤をいくら使っても、止めずに見守ることや、ほめずに、「一人でできたね」「細かく切れたね」など実況中継にとどめるなど。
- ★また、子どもに①アドバイスをしない。「共感」だけでいい。  
②一緒に考える。あなたはどうしたいの？と子どもに問いかける。  
③いつもあなたの味方よ！どんな結果によるだろうと子どもの気持ちによりそうこと、など実例をあげてお話ししてくださいました。  
例えば…小さな手のひらに豆腐を載せて、切ろうとしている  
子どもの写真、この後どうなる？  
大人であれば、鍋の上で切るなど手順がわかっているが、  
子どもは大人の真似をして手のひらでさいの目に切り、  
この後シンクに落としてしまう。子どもにいっぱい  
失敗をさせてあげることも大切です。
- ★自分が思う形に人参を切ったが大きすぎて火が通らず硬いままだった体験をとおして、自分が作ったものを食べてくれる人を思う心が育っていきます。



★できたての熱い味噌汁のお椀を運ぶ子どもの動画を見ると…

たった 30 秒でも大人が口出ししてしまうポイントがいくつもある。「そこに段差があるよ」

「熱いよ」「ひっくり返さないでね」

余裕があるときは待てるが、余裕がないときは待てないではなく、余裕のあるなしにかかわらずつい大人は口出しをしてしまう。口出しする回数を 10 回から 9 回にするだけで違ってくる。8 回、7 回と少しずつ、言わなくてもわかるようになっていきます。

#### ♡アンケートより♡

- ・家で子どもと一緒に料理をする機会を増やしてみようと思った。
- ・良かれと思っていたアドバイスが子どもの考える力をつぶしてしまう可能性があると感じて良かった。見守ることの大切さを学びました。
- ・いろいろな子がいて、いろいろな親がいて、正解はないのもっと子どもたちを観察しようと思った。
- ・改めて考えさせられた。自分ができる範囲で、実践していきたい。

